

令和4年度コミスク釜小

実践と検証結果（児童アンケートと教職員アンケートより）

令和4年度の釜戸小学校は主体性を引き出すことを中心に置きながら「①児童が主体的に学ぶ授業をする、②ふるさと教育を充実させる、③児童の自己有用感を高める。」の3つを重点にして取り組んだ。

1つ目の重点は、授業こそ児童が主体的になる場であると考えて設けた。授業後に児童が「考えることが楽しかった」「仲間と考え合うことが楽しかった」と実感することを目指した。

2つ目の重点は、学校運営協議会の評価委員会で出た意見に賛同して設けた。「日常的な場所であるため、児童は地域の魅力に気付くにくい。教員が地域の魅力を知り、より意図的に児童に気付かせてほしい。」との意見であった。これに応え、ふるさと教育を充実させようと考えた。

3つ目の重点は、昨年度の児童アンケートの結果に危機感を抱いて設けた。自己有用感のある児童が約80%、低い児童が約20%であったためである。「自分は誰かの役に立っている」「誰かの役に立つことができる」という自覚を、全児童がもつことを目指した。

コミスクの評価委員会資料として、2つ目の重点の実践と検証結果を取り出して、下に記す。

【仮説】

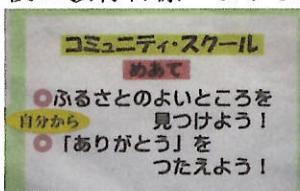
コミスク釜小の合言葉「ふるさとのよい所を見つけよう！」「『ありがとう』を伝えよう！」を、児童・教職員・地域の方々が共有して実践し、地域の魅力に浸ることができれば、教職員が熱意と感謝の気持ちをもつことができるだろう。それが児童に伝わり、ふるさとへの愛着や感謝の気持ちを抱かせることに繋がるであろう。

【実践】

（1）ふるさと教育を充実させるために

①合言葉の常用

釜戸小学校がコミスクになって2年目となった。大湫町・釜戸町の方々とタッグを組んで、学校の教育目標「よりよく生きぬく力の育成」の実現を目指す動きは、順調に進んでいる。



年度初めの学校運営協議会で、学校の教育目標に繋がる「コミスク釜小が目指す子ども像」を決めた。昨年度に引き続き「ふるさとの『人・自然・歴史・文化』の魅力に気付く子」と「『ありがとう』の気持ちを、言葉や行動で伝える子」となった。これを、子供と大人が共有できる合言葉「ふるさとのよい所を見つけよう！」「『ありがとう』を伝えよう！」にして掲示物を作り、学校の教育目標と同様、全室に掲示した。こうして言葉を目にし、口にすることで、意識を育てる。

地域の方を講師に招いた授業の時も、地域全体にボランティアを募って運動場の草取り活動を行った時も、この掲示を活用した。担任は、児童に向けて、校長・教頭・教務主任は、地域の方々に向けて、このめあてに向かっている活動であることを伝えた。

②魅力を実感している者による校内PR

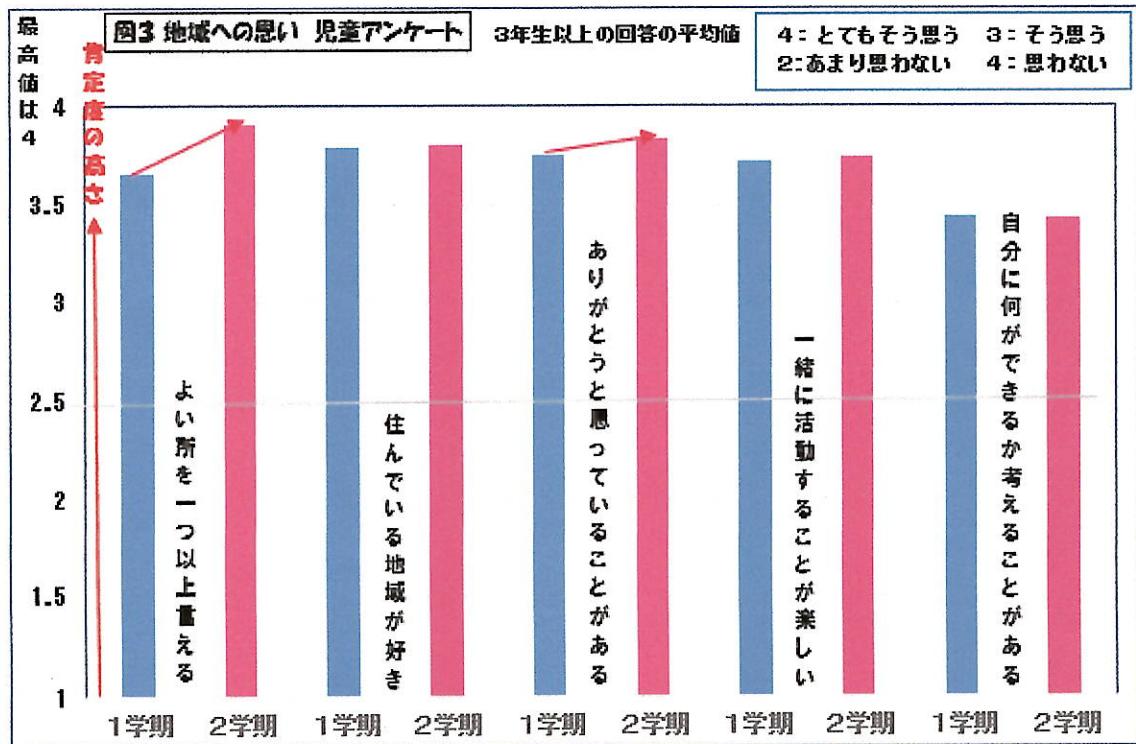
教職員の中で、地域の魅力を、より強く実感しているのは、校長・教頭・教務主任だと思う。

この三役は、コミスクや地域の会議で地域の方々と話す機会が多く、また、地域の方を授業の講師に招いた時に担任や児童に繋ぐことが多いため、特に「人の魅力」に触れるチャンスに恵まれている。

そのため、会議で話し合った内容や、地域講師として授業に入ってきた方が話されたこと、また、学校運営協議会委員の方々の動き等のすばらしさ・有難さを、日常会話や職員会議、職員打合せ等で伝えた。また、地域の行事や名所等を紹介し、見に行ったり参加したりすることも勧めた。

【検証】

教職員の自己評価の結果、ふるさと教育の充実について「とても充実した・充実した」という回答が100%であった。1学期も100%であったが、「とても充実した」の割合が上がり、20%から50%になった。記述欄には、「コミスクでよかったです」「ミシンやくぎ打ち、ふるさと探検等、たくさんの地域の知恵をいただき、児童がより多くの知識や技能を身に付けた」「地域の方々と触れ合うことで得られるものも大きい」「登下校の見守りも児童を知った上で声をかけてくださり安心。感謝！」「地域に詳しい方や専門的な知識をもった方から話を聞けることで、児童がよさを実感したり興味をもつたりした」「お礼の手紙等を通して感謝の気持ちを伝えるようにした」等とあった。地域の魅力を実感し、感謝の気持ちをもってふるさと教育をする教職員の姿が浮かんでくる。



児童アンケートの結果は、上のとおりである。

児童は、アンケートに4段階で回答した。肯定度の最高値は4、最低値は1である。1～2年生は2学期末のみアンケートを実施したため、比較できる3年生以上の回答の平均値をグラフ化した。赤の矢印は平均値の上昇を、青の矢印は下降を表す。矢印が付いていない項目は、1学期から2学期にかけての差が±0.00～±0.02であったため「変化なし」とした項目である。

1学期2学期ともに4項目で3.5以上の高評価である。特に「今自分が住んでいる地域のよい所が一つ以上言える」「地域の人に『ありがとう』と思っていることがある」では、2学期にさらに評価が上がった。

この2項目は、合言葉の内容そのものであり、大きな成果である。

唯一3.5を下回る3.4の「地域をよくするために、自分に何ができるかを考えことがある」は、内訳では6年生が3.7で非常に高い。コミスクを生かして学んだ成果として、6年生が、地域のよい所を知り感謝の気持ちを抱き、地域に自ら貢献する思いをもったと捉える。